

## 死者のためにバプテスマを受けることの輝かしい結果

**"アダムに属する者は皆死ぬように、キリストに属する者は皆、新しい命を与えられる"**  
第1コリント15:22

全人類が死んでいるか死にかけていることを否定する人はほとんどいないだろう。パウロは冒頭の節で、これは最初の間人アダムから始まったと説明している。これはアダムが神の掟に背いたためである。(創世記2:16-17、3:17-

19)。基本的に、コリントの信徒への手紙第一の15章全体は、死者は復活によって完全に生き返る機会が与えられるという保証を提示している。

パウロはその理由をこう説明している：「死が一人の人（アダム）によってこの世に生じたように、死者の中からの復活は、もう一人の人（キリスト・イエス）によって始まったのです。(キリスト・イエ

ス）」（21節）。ここで私たちは、この世を死から贖ったのはキリスト・イエスという人であったことを思い起こす。これは、イエス自身が自分の肉を「世のいのちのために与える私の肉。」と言ったときの言葉（ ）と一致している。ヨハネ6:51

使徒は「身代金」という言葉を使って、人間を死の責め苦から回復させる神の計画のこの特徴を表現した。救い主である神は、すべての人が救われ、真理を理解することを望んでおられます。なぜなら、キリスト・イエスというお方を通して、神と人類を和解させることのできる唯一の神と唯一の仲介者がおられるからです。イエスは、すべての人の自由を購うために、その命を捧げられたのです」。1テモテ2:3-6

新約聖書で「身代金」と訳されているギリシャ語は、「対応する代価」、「贖いの代価」を意味する。聖書が「聖なる者、無害な者、汚れのない者、罪人から離れた者」であると宣言しているキリスト・イエスは、神のかたちに創造された完全な人アダムと対応していた（ヘブル7:26、創世記1:26-27）。（ヘブル7:26、創世記1:26-27）。アダムは神の掟に背くことによって、自分自

身とその子孫全体に死をもたらした。完全な人であるイエスは、犠牲の死によって自らを捧げ、そうすることによって、それに対応する代価となった。その犠牲は、アダムと、それゆえにアダムから子孫を残すすべての人たち、すなわち

人類の贖いをもたらした。パウロが表現したように、この「すべての人のための身代金」によって、すべての人がいのちに戻る道が開かれたのである。

パウロは別の場所でこう書いている：「罪の報酬は死ですが、神の無償の賜物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。(ローマ6:23)

。ヨハネの福音書3:16-

17にも同じようなことが書かれている：「神は、このように世を愛されたのです。神は、そのひとり子をお与えになりました。それは、神を信じる者がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るためです。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世を救うためです。"

イエスはさらにこう説明された。しかし、彼を信じない者はだれでも、神のひとり子を信じなかったという理由で、すでに裁かれている。"（ヨハネ3：18

）。(ヨハネ3:18)。これらの文章は、遺伝によって全世界が死の宣告を受けていること、そしてこの宣告からの解放と完全な生命への回復の機会がキリストを通して与えられていることを明らかにしている。しかし、この回復は、この愛に満ちた備えがなされた個人の信仰と受け入れにかかっている。

今の時代、この神の恵みを知り、従順と神のみこころを行うための完全な献身を条件としてそれを受け入れる者は、「義とされ」、神の目において義とされると言われている。ですから、私たちは信仰によって神の目に義とされたのであり、私たちの主イエス・キリストが私たちのためにしてくださったことのゆえに、神との間に平和があるのです」(ローマ5:1)。(ローマ5:1)。イエスの足跡をたどることによって神のみこころを行うために人生を完全に捧げることによって支えられた完全な信仰をもってキリストのもとに来ていない人々は、現時点ではこの"神との平和"を享受していない。これらの人々は、罪によってまだ神から疎外されており、死の宣告を受けているのだ。

死から救われる道は、キリストによる以外にない。ペテロはイエスについてこう言った！神は、私たちが救われるべき名を、天の下にほかにお与えになったことはありません」。(使徒4:12)。イエス以外には死からの救いがないのは、イエスが罪の呪いを受け、死に瀕した民族に代わって、完全な人間の血を流された唯一の方だからである。聖書において流された血とは、注がれた命の象徴であり、イエスはアダムとそのすべての子孫が生きる機会を得るために、「死に至るまで魂を注がれた」のである。イザヤ書53章12節

キリストの流された血の規定を信仰によって受け入れ、神の御心に身を捧げるとき、そこには単に信じる以上のものがあることに気づく。あなたがたには、キリストを信じる特権だけでなく、キリストのために苦しむ特権も与えられているのです」(ピリピ1:29)。(ピリピ1:29)。イエスとともに苦しむことがクリスチヤンの特権であることを示す聖句は多い。テモテへの手紙の中で、パウロはこう書いている：もし彼とともに死ぬなら、私たちも彼とともに生きるでしょう。私たちが苦難に耐えるなら、彼とともに治めることができます。もし私たちが彼を否

定するなら、彼は私たちを否定するでしょう。"2テ  
モテ2:11-12

## 死者のために

適切なことに、パウロは死者の復活についての議論に関連して、すべての信徒に対する神の御心のこの側面に言及している。コリントの教会には、イエスの復活を信じていない人々がいたようだ。キリストが死者の中からよみがえらなかったのであれば、死者がよみがえる望みはないと彼は指摘する。それどころか、イエスが死者の中からよみがえられただけでなく、イエスによってすべての人が死者の中からよみがえり、完全ないのちに回復される機会（）が与えられることを示している。第1コリント15:12-22

使徒は、これがキリストの支配によって成し遂げられること、そしてすべての敵がキリストの足の下に置かれるまでキリストが支配することを明確に示している。死そのものさえも滅ぼされる。その栄光の業が完了したとき、キリストの王国は父なる神に引き渡され、キリストは

"あらゆる所において、すべてのものを完全に支配する"のである。第一コリント15:24-28

これにパウロは次の言葉を付け加える：「どうして私たち自身が、刻一刻と命を危険にさらす必要があるのでしょうか。親愛なる兄弟姉妹よ、私は毎日死に直面していることを誓います。それは、私たちの主キリスト・イエスがあなたがたのうちに成してくださったことに対する私の誇りと同じくらい確かなことなのです」。もし死者の中から復活することがないのなら、野獣、すなわちエペソの人々と戦うことに何の価値があろうか。もし復活がないのなら、ごちそうを食べ、酒を飲みましょう。

ここで私たちは、キリストを信じる真の信者たち、つまり現在実際にキリストの足跡をたどっている者たちは、キリストとともに苦しみ、死ぬのだということをおぼろげに思い起こす。パウロは、これは人類の"死んだ"世界を代表してのことであり、イエスに従う者たちの苦しみと死から、何らかの形で死者が恩恵を受けることを示している、と説明する。これは実に、人類世界に生命を与えるという神の壮大な設計の重要な特徴の一つである。このこと

は、聖書の中でさまざまな形で私たちの注意を喚起している。そのひとつが、神がアブラハムに約束された、彼の子孫によって地上のすべての家族が祝福されるという約束である。創世記12:3; 22:18

パウロは、この約束されたアブラハムの胤とはイエスであると特定し、こう付け加える。「バプテスマによってキリストと結ばれた者はみな、キリストを身につけたのです。アブラハムに対する神の約束は、あなたがたのものなのです」。(ガラテヤ3:16-27-29)。ここには、キリストにバプテスマを受け、忠実である者は、地上のすべての家族を祝福するという約束をキリストとともに受け継ぐことが明らかにされている。祝福されるべき "地上の家族

"は、死んでいるか、死につつあるかのどちらかであるから、イエス・キリストにバプテスマを受ける者は、象徴的に言えば、"死者のためにバプテスマを受けた

"と考えるのが論理的である。このバプテスマによって、彼らは将来、地上のすべての家族を祝福するという偉大な働きにふさわしいことを証明し、その準備をするのである。

**バプテスマはさらにこう説明した。**

聖書の中でクリスチャンに認められている水への浸礼は、真のバプテスマの象徴や絵にすぎない。パウロは言う：「私たちが洗礼によってキリスト・イエスと結ばれたとき、キリスト・イエスの死に結ばれたことを忘れたのですか。...私たちは、キリストの死においてキリストと結ばれたのですから、キリストと同じようによみがえらされるのです。」ローマ6:3,5

イエスの死の「類似性」とは何だったのか？使徒はさらに説明する：「ですから、あなたがたも、自分自身が罪の力に対して死んでいると考えるべきです。(10-

11節)。イエスは決して罪人ではなかった。だから、あなたがたも、罪の力に対して死んだと思いなさい」(10-

11節)。イエスの「罪に対する」死は、罪の呪いを受けた人類の世界を代表しての犠牲の死であった。私たちがバプテスマによって彼とともに死に植え付けられるのも、同様に犠牲の死である。パウロはこう書いている。「神があなたがたのためにしてくださったすべてのことのゆえに、あなたがたのからだを神にささげなさい。あなたがたは、神があなたが

たのためにしてくださったすべてのことのゆえに、自分のからだを神に捧げるよう懇願する。これこそ、神を礼拝する方法なのです」。ローマ12:1

犠牲の死へのバプテスマについて、イエスは言われた。"しかし、私には受けるべきバプテスマがある。(ルカ 12:50)。ここで "完了した"と訳されているギリシア語には、束縛されている、あるいは夢中になっているという意味がある。主がこのように言われたのは、彼が逮捕され、死刑に処せられるであろう宣教の終わりの時期のことである。したがって、主のバプテスマは、文字通りの意味で、"死に至るバプテスマ"であった。

弟子の二人が、御国において、一人は右の手、もう一人は左の手に座ることを求めたとき、イエスは彼らに言われた：「あなたがたは、自分が何を求めているのかわかっていない」とイエスは言われた。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲むことができるか、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」--マルコ10:35-38。

この二人の弟子たちは、イエスが言及した経験を自分たちも経験できると言ったので、イエスは言われ

た。"あなたがたは、私が飲む杯を飲み、私が受けるバプテスマを受けなさい"。(39節)。バプテスマとは「葬る」という意味であり、これらの様々な文章で言及されているのは、私たちの意志が神の意志の中に葬られることである。イエスが世の罪のために犠牲となって死ぬことは神のみこころであり、それゆえ、主人の意志が天の父の意志の中に葬られることは、死へのバプテスマを意味するのである。同じように、イエスの弟子たちが、死へと向かう師に従い、師のバプテスマを受けることも神のみこころであり、それは死へのバプテスマであるとパウロは説明している。

イエスの犠牲の死は、アダムの種族に下された死の宣告を取り消すものであった。しかし、罪の宣告から解放された世界は、キリストの犠牲の御業について啓蒙される必要がある。これに加えて、アダムによって失われた完全性を回復するために、人類は精神的、道徳的な墮落から引き上げられ、罪のすべての後遺症から清められる必要がある。イエスの死に似せて共に植えられたイエスの忠実な信者たちは、この啓蒙と回復の業に参加するのである。

## 世界和解

和解とは、2つ以上の当事者が互いの好意を回復できるように、相違、矛盾、対立を解決するプロセスであると定義できる。パウロは、人類と神との和解についてこう書いている：「このすべては、キリストによって私たちをご自身のもとに連れ戻してくださった神からの賜物です。そして、神は私たちに、人々を神と和解させるという仕事を与えてくださったのです。神はキリストにあって、世をご自分と和解させ、もはや人々の罪を。そして、和解というすばらしいメッセージを私たちに与えてくださったのです」。第2コリント5:18-20

この一節からわかるように、犠牲を払う主人の従者たちは、「このすばらしい和解のメッセージ」に主人とともに参加している。この仕事は、失われた種族に対する救いの計画の偉大な創造者である神に由来する。その計画はイエスによって実行に移された：「神はキリストにおいて世をご自分と和解させられた」。そして、キリストに従う私たちは、キリストが用意された和解の業におけるキリストの代理人

として登場する。私たちは  
"を与えられている。

"和解の言葉

21節にはこうある：「神は、罪を犯したことのないキリストを、私たちの罪のための供え物とされました。(第2コリント5:21)。罪の呪いを受け、滅びゆく民族の一員である私たちが、和解の業において神に用いられる根拠がここに示されている。それは、まず第一に、キリストが私たちの和解のための備えをしてくださったからであり、この備え（  
）を受け入れることによって、私たちは  
"キリストによって神と正しい者とされる  
"のである。私たちは、和解のための血の価値には何も加えないが、その血の力によって私たちの和解が実現し、神は私たちを義と認め、キリストとともに他者のための和解の業に参加する特権を与えてくださるのである。

パウロは6章1節でこう続ける：「私たちは、神の恵みは無駄に受けないように勧めます。使徒が私たちに、神の恵みは無駄に受けないようにと勧めている神の恵みは、なんと驚くべきものであろうか！彼とともに働く者であるというこの特権は、神の救いの

計画における二つの時代、すなわち現在の福音、すなわちキリスト教の時代と、来るべきメシアの時代を包含する働きである。キリストは弟子たちに、全世界に行って、和解の言葉によって福音（ギリシャ語では良いメッセージ）を宣べ伝えるように命じられた。（マタイ24:14、使徒1:8）。この働きには犠牲が必要であり、主に仕えるために命を捨てる必要がある。私たちがキリストとともに死へのバプテスマを受け、キリストとともに苦しみ、死んでいくのはこのためである。

そして、これまで見てきたように、キリストのからだのメンバーがすべて集められ準備されたとき、近づいてくるメシア時代の仕事は、残りの人類を和解させ、いのちに回復させることである。パウロはこう書いている。"

、わたしの好意の時に、わたしはあなたがたを聞き、救いの日に、あなたがたを助けた。"第二コリント6:2

この「救いの日に」という表現は、個人の生涯に適用されるのではなく、天の父がご自分の民の犠牲を受け入れ、ご自分とともに働く者としてご自分の計画の中で役割を与える神の計画の期間、すなわち現

在の福音時代に適用されるのである。このテキストで、パウロはイザヤ書49章8-

9節の一部を引用している。救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを守り、わたしの契約として人々に与える。あなたを通して、わたしはイスラエルの地を再興し、それを再び自分の民に割り当てる。私は囚人たちに『自由に出てきなさい』と言い、暗闇の中にいる者たちには『光の中に出てきなさい』と言う。彼らは私の羊となり、緑の牧草地で、以前は裸だった丘で草を食むようになる」。

## 天と地の救い

今の時代、信仰によって、キリストを通して神から与えられた命の糧にあずかる者は、死に至るまで忠実であるならば、栄光と誉れと不死へと昇華される。(ローマ2:7)。彼らは、ヘブル3:1では

"天に召された者たち

"として語られている。第2ペテロ1:4では、神の性質である「神の性質」にあずかる者となるための約束が与えられていると描写されている。ローマ人への手紙5章2節では、これらの人々は

"神の栄光を分かち合うことを待ち望む  
"ことを喜ぶ者として描かれている。

神性は不死であるだけでなく、生命の源でもある。  
だからこそ、上に引用したイザヤ書49:8-  
9のように、キリストとともに死の洗礼を受け、す  
べての試練を通して神に守られている人々は、囚人  
に向かって「出て行け」と言い、暗闇の中にいる人  
々に向かって「姿を現せ」と言うのである。この  
"囚人

"とは、キリストとその忠実な従者たちを通して、  
アダムの死への束縛から解き放たれる、死者も生者  
も含めた人類の残りの大部分である。しかし、これ  
らの人々は、教会のように神の性質に引き上げられ  
るのではなく、"荒れ果てた遺産を受け継ぐ  
"ために引き上げられるのである。

これは地上の命の遺産であり、アダムに与えられた  
が、アダムが罪によって失った地上の支配権である  
。この地上生活の遺産は、キリストの血によって買  
い取られたものであり、教会はキリストとともに、  
この遺産を、  
、その千年の祝福の王国の掟に従うすべての人に回  
復する。その間に、真のクリスチャンが現在バプテ

スマを受けている死者たちは悟りを得て、人間生活の完成に戻る機会が与えられるのである。

私たちの愛に満ちた永遠の神が、今終わろうとしていると私たちが信じるこの「救いの日」全体を通して、犠牲を捧げる民を常に助け続けてくださったことを、私たちはどれほど感謝しているだろうか！私たちは、キリストの血の功德によって、天の父がご自分の民の犠牲を受け入れてくださり、神性への究極的な昇華を期待して、ご自分への忠実さを試すことを可能にしてくださることを喜んでいる。

これまで見てきたように、死のバプテスマが行われている間にも、主は彼らを偉大な救いの計画の協力者として用いてこられた。彼らは和解と回復のメッセージを全人類に伝え、やがて主の知識が

"水が海を覆うように

"地を満たすようになるからである。イザヤ11:9;

ハバクク2:14

キリストの使者として、和解のことばを用いる教会を通して、イエスによって与えられた「すべての人のための身代金」の知識は、やがて「証し」され、すべての人に知らされるのである。1テモテ2:3-6

## 花嫁

象徴的な言葉として、聖書は忠実な教会全体、つまり現在の福音時代にイエスの死に似せて共に植えられたすべての人々を、キリストの「花嫁」として語っている。黙示録19:7では、イエスは贖いの犠牲的性質から「小羊」として言及されている。私たちはこう読む：「小羊の婚礼が来て、その妻は身支度を整えたからである。

栄光のうちにイエスと結ばれ、メシヤ時代に人類の回復をイエスと共にする者たちの、現時点での「準備」は、多くの犠牲と苦しみを伴うものだった。イエスご自身の宣教は、主に犠牲によるものであり、それは死によって終わった。聖書は、イエスのようになること、象徴的に言えば、バプテスマによってイエスとともに死に葬られることを私たちに促している。

花嫁となる者の装飾は、他者のために犠牲を払う無私の愛であることに加え、神の御心を行う謙遜と従順の装飾でもある。それは実際、聖霊のすべての実と恵みの豊かな組み合わせである。(ガラテヤ5:22-

## 23、2ペテロ1:5-

7) 。キリストの未来の花嫁候補の一人一人が、こうして「夫のために美しく着飾り」、全体が「第一の復活」のときに初めて、小羊とその花嫁の結婚が行われるのである。黙示録21:2; 20:6

黙示録22:17が成就するのはその時である。本文にはこうある：「御霊と花嫁は "来なさい" と言う。これを聞く者はだれでも "来なさい" と言いなさい。渇いている者はだれでも来なさい。望む者はだれでも、いのちの水を自由に飲みなさい。"御子キリスト・イエスを通して現れる神の聖なる力と影響力である "御霊" と、忠実な教会である "花嫁" が、人類が "いのちの水" にあずかるよう招かれる手段を構成すると、私たちは知らされている。このように、イエスの死に似せて共に植えられた者たちが、救いの計画の中で占める独特な位置が再び明らかにされるのである。

パウロが、死者の復活がないのであれば、キリスト教の苦しみと死がいかにも無益なものであるか、死者のためのバプテスマがいかにも無意味なものであるかを指摘するのも無理はない！しかし、「初穂」であ

るキリストがすでに死者の中からよみがえられ、天の栄光に昇華されたのだから、死者の復活があることを私たちは知っている。(第1コリント15:23)。最初の復活」は、キリストとともに生き、キリストとともに治めるために、キリストとともに苦しみ、死んだすべての人を包含するが、この栄光の希望は、「死に至るまで」忠実であることによつてのみ実現することができる。黙示録2:10

私たちは、犠牲のために命を捧げる人々に対する神の助けが保証されていることを喜ぶ。忠実であることの最大の動機の一つは、私たちが現在「死者のためにバプテスマを受けている」ことが、神のご計画における次の時代に、死者の究極的な益となるという聖書の約束である。もし忠実であれば、私たちは死んだ世界を生き返らせ、啓蒙し、神と和解させ、永遠に生きる機会を与えるという偉大な未来の業を共有することになる。神の御言葉には、なんと輝かしい結果が約束されていることだろう！